

## 令和7年度「縄文文化を中心にした美山公園活性化」事業成果報告書

### [1] 考え方

美山公園では活性化のためにランドデザインを設定し、それに基づき、集客型イベントや機能整備、市民や子どもたちの体験学習などに継続的に取り組んでいる。

2025年度は、2024年度に(一財)新潟県建設技術センターの助成を受けたタイニーハウス開発を実現化し、その活用を検討し具体化を推進した。

進め方としては、前年度と同様に、市の学芸員や観光関連業、デザイナーなどの専門家を核に、市民参加型のワークショップによって、美山公園の魅力拡大に役立つ、具体化を検討した。また同時に次年度に向けた実現イメージの検討を行った。また、今年度は新たな取り組みとしてアウトドアライフアドバイザーを招へいし、キャンプ場でのタイニーハウスの楽しみ方や、タイニーハウスを拠点とした子供向けの防災学習の導入も検討した。

### [2] タイニーハウスの試作組み立て(ワークショップ)

前年度にデザインされたタイニーハウスのパーツ製作と組み立てを行った。

今回の試作物は、組み立てと分解、移転して再組立ができるように設計されている。そのため、場所を自由に設定できることを活かして、クラブハウス美山の前面にある庭園に設置し、いろいろな年代層やイベントに活用してもらい、今後の活用の仕方を検討することとなった。



### [3] タイニーハウスの活用の検討(市民参加ワークショップ)

タイニーハウスの基本コンセプトは前年度に決定した「縄文の知恵を生かし、自然空間と一体的に生活空間を形成するタイニーハウス」である。それを踏まえ、子供たちの野外活動にどのように役立つか、さらにどのように改良や機能付加を行えば良いか、という視点で企画検討し、ワークショップを行った。具体的には、糸魚川市の市民活動と

して、子供たちにいろいろな体験をさせるプレイパーク活動がある。その活動の一環として、タイニーハウスを体験してもらい、より良い方向性を探ることとした。



**いとがわプレイパークって  
どんなところ？**

なにをするかは きまってるよ  
はしってもいいしつくってもいい  
ねころんでもいいし  
なにもしなくてもいい  
なるべくきんしをなくして  
じゆうにあそぶことをたいせつにした  
だれでもこれるあそびばです

なんと  
クラブハウスに  
ひみつきちができたよ！  
\みってきてね！

【いとがわプレイパークが大切にしていること】  
プレイパークは、すべての子どもが自由に遊ぶことを大切にしている遊び場です。子どもは自由に遊ぶことで、生きていくための力を自然と学んでいきます。やってみよう！は育ちのチャンス。それを邪魔するのではなく応援する関わりを大切にしています。

【私たちについて】  
子どもたちが外で自由に遊ぶこと、そんな当たり前のことが難しくなってきた今の世の中、こども魚川も例外ではありません。子どもが子どもらしく遊び育っていく環境を作っていきませんか？  
私たちはそんな願いを叶える為に集まった年齢も職業もバラバラの地域の大人、講師や話し合いを兼ね、2022年から活動を開始しました。もっと話を聞いてみたい、どんな場か見てみたい、という大人の方の参加も大歓迎です。ぜひ足を運んでみてください。運営メンバー一同、遊び心をいっぱいにお待ちしています！

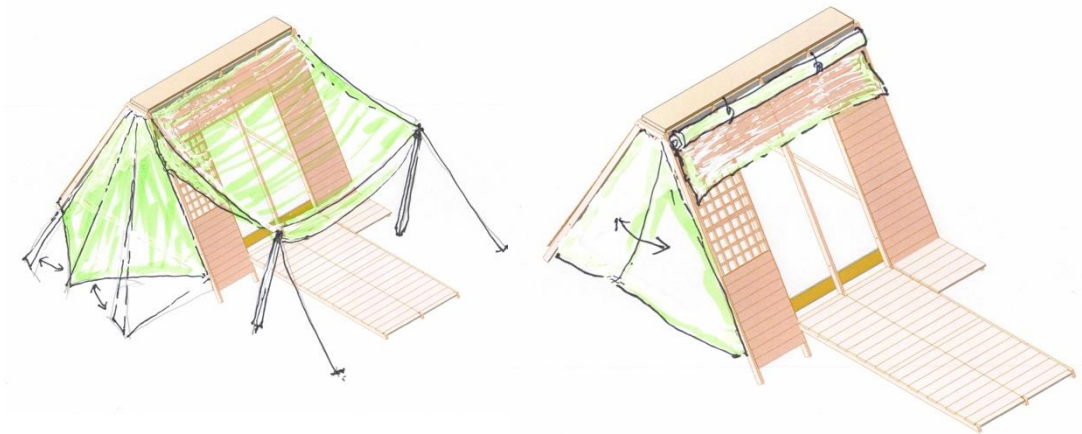
どこでもあそび場実行委員会 委員長 齊藤聖汐(つーこ)

方向性として挙げられたのは、キャンプ場などの野外での休憩や食事に役にたつ、という確認が取れた。これに加えて、より落ち着く空間として、タープ的なテントの取り付けや、遊具的に子供がよじ登ったりする機能があると良いという意見をいただいた。さらに今後はもっと小さくて子供たちが組み立てられる「秘密基地」的なキットが欲しいという声が上がった。また、遊ぶだけでなく、遊びながら防災の観点でも学べるような仕組みを取り入れて欲しいとの意見もいただいた。

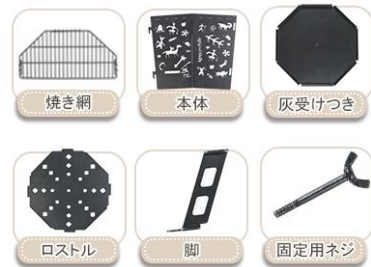
### [3]活用の方向性検討(ミーティング)

プレイパークでの意見を踏まえ、タープのように広がるテントのデザインと、子供が登って楽しめるボルダリングの付加を決定した。よじ登るためのロープの設置も提案されたが、ボルダリングとの混在は危険が伴うため、中止とした。また、子供たちが遊びながら防災の観点で学びを得られるよう、トレッキングキットを購入した。上記のような子供向けの遊具・学習機能強化とともに、「木と布で創る、心地よい小空間」、「縄文の知恵として、火を生活の中心に置いて、楽しむ住まい」という視点も考慮し、薪の焚き火台も設置することとした。

## ■テントタープの付け方



## ■焚き火台の選定



## ■ボルダリングパーツ



## ■トレッキングキット



#### [4]プレイパークでのタイニーハウス活用

冬開催のプレイパークで子供たちが雪の中のタイニーハウスをどのように活用するのか検証をおこなった。当日は雨であったが、雨が強まるとタイニーハウスで雨宿り、雨が弱まると遊びまわるといった姿が見られた。雪遊びの道具も自然とタイニーハウスに集約され、拠点として活用されていることが確認できた。また、防災学習の観点から購入したトレッキングキットを希望者に貸し出した。水を濾過できる装置を活用し、雪や雨水などを集めて実際に水を濾過していた。

同時に子供たちの感性を生かすために、プレイパークでテントの色彩を子供たちに投票で選定してもらった。



#### [5] テントと遊具機能の設置(ワークショップ)

プレイパークでテントの色彩を子供たちに選定してもらい、それに基づきテントとボルダリングパーツを発注し、設置を行った。子供たちが選んだ色彩のテントが日光を透して、とても魅力的な空間が生まれた。またタープの広がりやタイニーハウスの使いかたを多様に魅力的にしていると考え



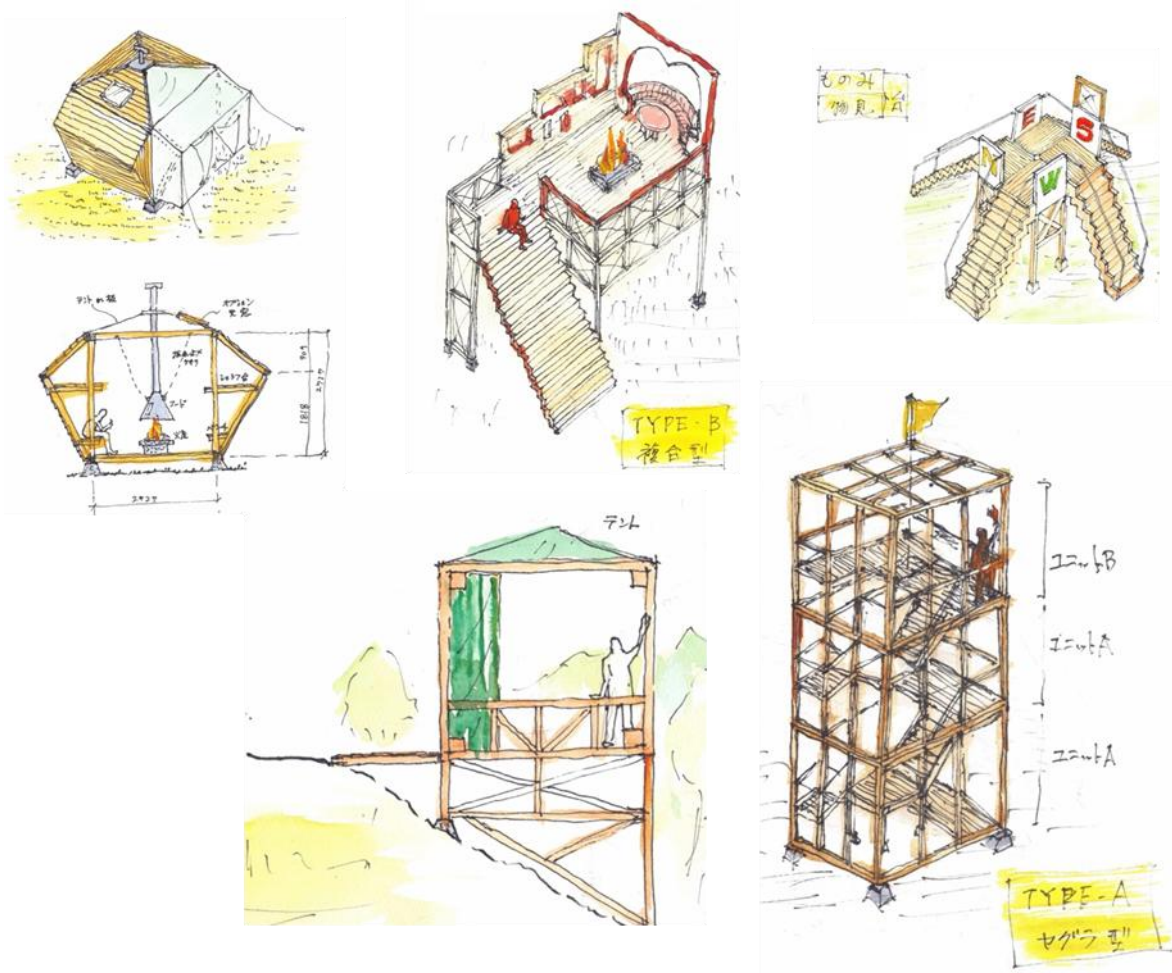
焚き火の設置については、器具は用意したが、火の使用に関して、公園管理者との調整が必要なため、今回は見送った。

[6]次年度への活用の検討(ミーティング)

今回設置したタイニーハウスは、そのままキャンプ場に移設すれば、キャンプの楽しみ方を拡大することになると考える。

今回の成果を踏まえ、今後どのように発展させていくか、検討を行った。アウトドアライフアドバイザーを招へいし、美山公園とキャンプの楽しみ方を拡大するためのプランや防災学習の導入について提案された。

基本的な方向として、基本ユニットにいろいろな機能ユニットを取り付けることで、テントではできない魅力づくりが検討された。



しかし、美山公園の最大の資源である縄文式空間を生かした三角屋根方式で、縄文キャンプ場としての独自景観を形成することを次年度のテーマとすることになった。

ただし、今回検討された眺望台などの機能も必要なので、それも併せて検討していくこととなった。

## [7]事業の成果

事業計画の際に設定した「期待される具体的な成果」は「美山という拠点に子育て世代の滞在が増え、若い世代が地域資源の魅力を再認識することで地元での消費が増加し、継続的な波及効果につながる、地域価値の向上につながる」とした。今年度は市民活動のプレイパークとの連携により、実際に子育て世代の市民から活用してもらった。その結果、美山に子育て世代が多く集まり、タイニーハウスという新たな拠点の存在を広く周知することができた。また、市民からタイニーハウスへのアイデアをもらい、実際に取り入れたことで、市民に「一緒に新しい拠点を創った」という認識が生まれ、美山公園の魅力を再認識するためのきっかけになったといえる。これにより、今後の継続的な利用や地域内での消費の増加、さらには波及効果につながる基盤を形成することができたといえる。

今後は、本拠点の認知向上やコンテンツの充実を図ることで、市外からの来訪者の増加も見込み、交流人口の拡大による地域内消費の促進や、さらなる地域価値の向上につなげていく。